

(1) 高山帯



1) 環境の特徴

安曇野市の高山帯は、北は東沢岳から南は大滝山までの標高2,400mより上の地域です。寒冷で風が強い環境のため、高木林はみられなくなり、ハイマツ等の低木や、草丈の低い草原（低茎草原）、あるいは植物がまばらに生える裸地（風衝地・岩場）が中心の植生です。そのほか、常念岳から大滝山にかけての地域には、稜線沿いに小規模な湿地（池塘）が点在しています。

高山帯の特徴として、独特の生物相が挙げられます。高山植物、ライチョウ、高山チョウ等は、氷期に北から移動してきた野生生物が、その後の間氷期に高山にとどまったものです。国内の高山帯は、他と孤立している地域が多いことから、これらの野生生物はそれぞれの高山で独自に進化し、その地域特有の種（固有種）が生息・生育しています。

2) 環境を指標する種

環境	環境を指標する種
お花畑 	植物：クロユリ、シナノキンバイ、ハクサンイチゲ、ハクサンフウロ、ミヤマアキノキリンソウ、ミヤマキンポウゲ、モミジカラマツ、ヨツバシオガマ 動物：クモマヒナバッタ、クモマベニヒカゲ、シララカハナカミキリ、ベニヒカゲ、ホンシュウハイイロマルハナバチ

環境	環境を指標する種
<p>ハイマツ群落</p> 	<p>植物：キバナシャクナゲ、コケモモ、ゴゼンタチバナ、タカネナナカマド、ハイマツ、ハクサンシャクナゲ</p> <p>動物：カヤクグリ、ホシガラス、ライチョウ、オトメクビアカハナカミキリ、クロホシビロウドコガネ、ダイモンテントウ、タカネヒカゲ</p>
<p>風衝地・岩場</p> 	<p>植物：イワスゲ、イワツメクサ、クモマスミレ、クロマメノキ、コマクサ、チシマギキョウ、ミヤマキンバイ</p> <p>動物：オコジョ、イワヒバリ、オオガロアムシ、オンタケクロナガオサムシ、クモマヒナバタ、タカネクロヤマアリ、ヒメマルクビゴミムシ、ミヤマモンキチョウ</p>

3) 代表的な地域

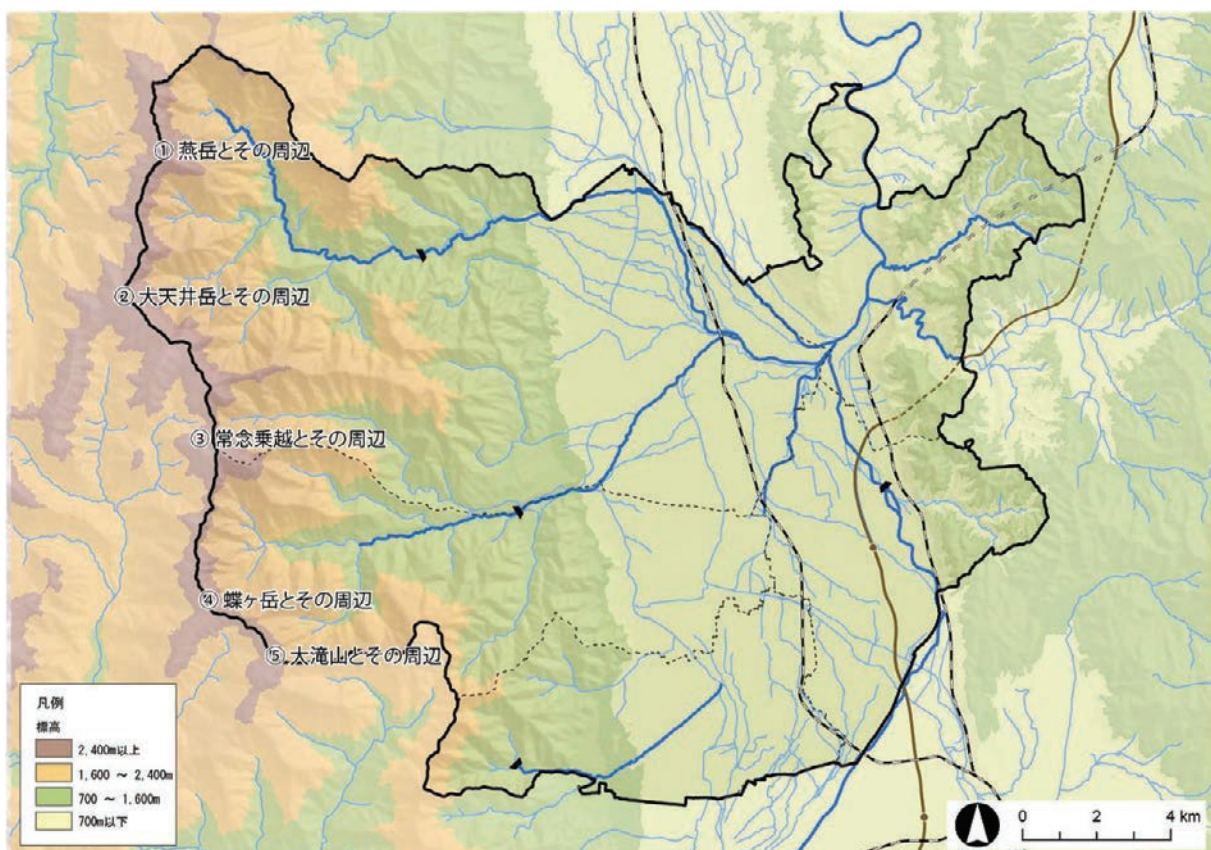


図 5-1 重要な自然環境のみられる代表的な地域（高山帯）

①燕岳とその周辺



【地域の特徴】

燕岳の周辺には、砂質風化花こう岩の風衝地がみられます。燕岳周辺は、安曇野市内ではコマクサが多く生育している地域です。また、東側斜面には吹き溜まりによる雪田ができ、夏季にはお花畑となります。

【主に生息・生育する野生生物】

植物：クモasmミレ、コケモモ、コマクサ、シナノキンバイ、ハイマツ、ハクサンイチゲ

動物：テン、ニホンザル、イワヒバリ、カヤクグリ、ライチョウ、クモマヒナバタ

②大天井岳とその周辺



【地域の特徴】

礫質の風化花こう岩で、西側斜面にはコマクサの群落があります。他地域ではあまりみられないイワベンケイが生育しています。東側斜面は単調な急斜面で、崩壊地とハイマツ群落が斑模様を描いて分布し、所々にお花畑があります。

【主に生息・生育する野生生物】

植物：イワツメクサ、イワベンケイ、コマクサ、ハイマツ、ミネズオウ

動物：イワヒバリ、ライチョウ、オオガロアムシ、クモマヒナバタ

③常念乗越とその周辺



【地域の特徴】

常念乗越は標高約2,470mで、ハイマツ群落があります。乗越北側のより標高が高い横通岳側にオオシラビソ群落があります。これは植生の逆転現象で、乗越を吹き抜ける強い西風で、冬季の積雪量がきわめて少ないことが原因とされています。

【主に生息・生育する野生生物】

植物：オオシラビソ、コケモモ、タカネウシノケグサ、ダケカンバ、ハイマツ

動物：イワヒバリ、ライチョウ、クモマヒナバタ、タカネクロヤマアリ、タカネヒカゲ、ミヤマモンキチョウ

④蝶ヶ岳とその周辺



【地域の特徴】

安曇野からみて蝶の雪形が現れる場所は、雪田が解けるとお花畑となり、高山植物が一面に咲きます。また稜線には二重山稜が発達し、線状凹地内では雪の解けるのが一番遅いため、垂直分布の逆転した植生が確認できます。

【主に生息・生育する野生生物】

植物：ウサギギク、エゾシオガマ、オオサクラソウ、コバイケイソウ、シナノオトギリ、タカネヤハズハハコ、ハイマツ、ミヤマアキノキリンソウ、モミジカラマツ

動物：ツキノワグマ、イワヒバリ、ライチョウ、オオハサミシリアゲ、クロホシビロウドコガネ、ベニヒカゲ

⑤大滝山とその周辺



【地域の特徴】

大滝山周辺の稜線部には、安曇野市内では数少ない湿地がみられます。湿地の規模は小さいものの、湿性植物が生育しており、ルリボシヤンマやクロサンショウウオの貴重な産卵場所となっています。

【主に生息・生育する野生生物】

植物：エゾホソイ、ミノボロスゲ、ミヤマコウゾリナ

動物：ツキノワグマ、カヤクグリ、ホシガラス、クロサンショウウオ、オンタケクロナガオサムシ、コヒオドシ、タカネベッコウハナアブ、タカネムネボソアリ、ヒメマルクビゴミムシ、ルリボシヤンマ

□■ 指標種とは ■□

指標種（指標生物）は、一般的に生態がよく研究され、生息・生育できる環境の条件がわかっている生物のことです。その生物の分布等を調査することにより、対象とする場所や地域の環境の状況を評価することができます。

指標種を用いた環境の調査としては、農村部に多い在来のタンポポと都市部に多い外来のタンポポの分布を調べることにより、都市化の状況を評価する調査や、河川に生息する水生昆虫の種類を調べることにより、水のきれいさを評価する調査等があります。

本書では、紹介した地域の環境に依存して生息・生育する野生生物を指標種として紹介しました。